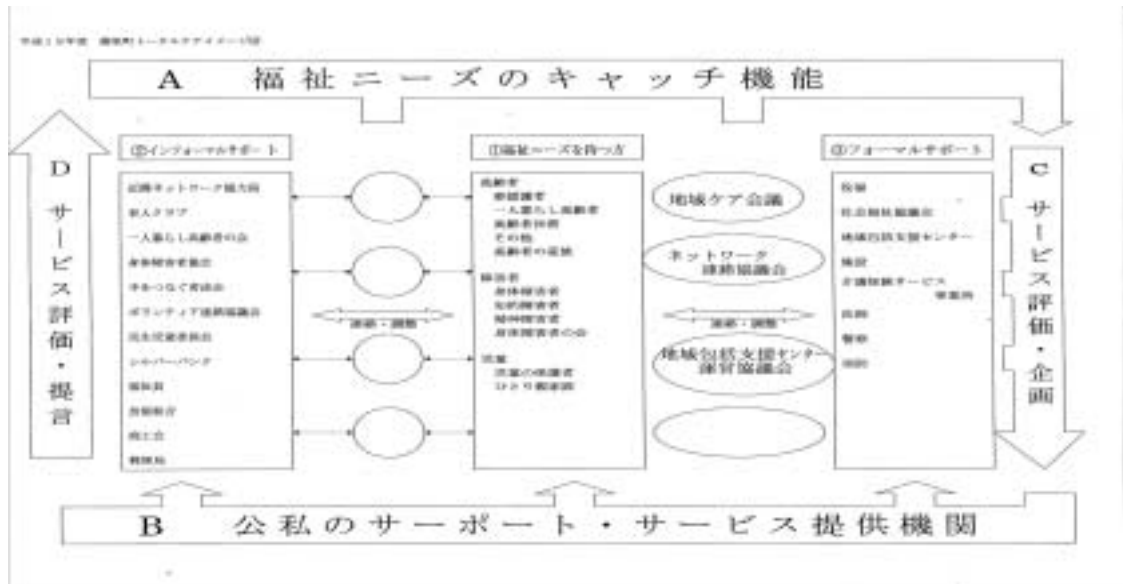


受付があった。三年目は、12月末で1,300件を超えている。これは「書く」事に確かに慣れたこともあるが、記録したことに専門的な視点で意見が出されるので、日常の些細な事に意識を持って関わるようになった事で多くのニーズが発見出来るようになったと思われる。このシステムは、平成17年度藤里社協が提案している「藤里町トータルケアイメージ図」に添った取り組みとなっていて、ニーズキャッチ機能が形成されている。



「元気の源さんクラブ」は、健康でいきいきした生活を送ることを目指して、60歳以上の方を対象に楽しく暮らしに役立つよう、簡単な運動やゲームを取り入れて転倒予防プログラムや認知症予防プログラム等楽しみながら「効果」を感じる事が出来るように配慮している。



《ストレッチ》
毎回準備体操として取り入れている。簡単で無理をしないように、効果を伝えながら行う。



《バランスマット体操》
マットの上でバランスを取りながら下肢筋力を養い、転倒予防効果を狙う。



《かしこく5ハン》
毎日の献立に季節の食材を取り入れ、
工夫しながら「食」に対する関心を持
ってもらおう。



《歩けメロス》
ウォーキング。自分のペースでゆっくり
と散策し外で昼食をとりリフレッシュ
を図る。



《水中ウォーク》
町内の温水プールを利用している。施
設のインストラクターの指導で水中を
歩く。



《物づくりで生きがい作り》
指先を使い脳の活性化により、認知症
予防効果を狙う。



《歯っとしてGOOD》
町営歯科医師による口腔ケア。正しい
ケアで健康維持を図る。



《笑筋道場》
笑うこと。ただひたすら笑うこと。腹
筋、肺活力に効果あるとされている。

これらのプログラムは、担当職員が考えたプログラムで、4ヶ月を1クールとし担当者会議にて評価や見直しが行なわれている。

昨年度より、地域に出向いての介護予防「出張！元気の源さんクラブ」を開催している。老人クラブとのタイアップで月2回開催が実現可能となった。更に「心といのちを考える会」による「出前サロン」も同時に開催する事が出来た。将来的には「元気の源さんクラブ」の参加者が地域で「出張！元気の源さんクラブ」のスタッフの一員となり、さらには主体的に活動できるよう期待している。



よってたもれサロン -



今年度からは、元気の源さんクラブ介護者バージョンとして「みんなの縁側」を月1回開催している。これは在宅で介護されている方々向けで、様々な問題を抱えている方へ気軽に立ち寄り・ゆっくり過ごす場所を提供し、介護者の心身のリフレッシュを目指している。また、毎回ケアマネが事業に参加しており、そこで出る問題等に直ぐ対応することも可能としている。元気の源さんクラブは今後も継続していく予定で、働いている方向けや障害者向け、引きこもりの方向けなど出来るものから取り組み、その事業を行ないながら事業の必要性を見きわめ、固定すること無くどんどん進化させていく考えである。

今年度、異業種による「井戸端会議」から「若者部会」が発足し、活動を始めている。

多種多様な分野で活動されている方々が意見交換し、社協事業へ反映させ事業推進の中核となり展開してきた。その中から、地域を支える若い方たちがこの地域で暮らしていくことをどのように考えているか意見を出し合い、若者達で何か出来ないかという思いで出来たのが「若者部会」である。最初に手がけたのはわか杉大会へ向けた「ゴミ拾い大会」、終了後は「エコ懇親会」マイ箸・マイ皿・マイコップ持参での懇親会で交流を深めました。今後の活動に期待が大きい。

この3年間、地域住民や関係機関のご理解やご協力にて「地域福祉トータルケア推進事業」を推進することが出来た。誰もが住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるよう、住民の参加を得ながら「セーフティネットの構築」を目指していくことが、藤里町社協での地域福祉のありかただと感じている。「トータルケア」と関わったこの3年間は私にとって、とても有意義であった。



2. 上小阿仁村社会福祉協議会でのトータルケアの取り組み

上小阿仁村社会福祉協議会
在宅福祉相談員 門松桂子

上小阿仁村社協はいつまであるのだから？

上小阿仁村社協は現在存続の危機を迎えています。

それは、行財政改革の影響による補助金の大幅削減と、自主財源の6割を占める介護報酬の減収による財政危機です。来年度予算では1,200万円の単年度赤字を見込んでいます。たかが3,100万円の基金しか有しない当社協にとっては、基金取り崩しを持って、打開策がなければ22年度予算が組めない現状なのです。

以前に、社協の組織強化並びに自主財源の確保と共に、社協の存在意義をアピールしていかなければ将来が大変だと奮起を期待された時期がありました。が、今まさにその存在意義を問われているがけっぴぐちに立たされています。

地域福祉を推進している中核的役割って？

今回、この財政危機を迎え、事務局と理事による財政検討委員会を数回行った中で、社協ならではの事業、地域のために社協が行っている事業は何かと問われた際に、強くアピールできるものが何もないと改めて考えさせられました。

また社協はなくても良いのか。赤字事業所でも経営を継続していくのか。との意見もありました。

厳しい時だからこそ問われている真価。社協は何のためにあるのか。社会福祉法第109条に明記されている団体である意味はどういうことか。そのためにどうしたらよいのか。と。

単なる介護保険事業所ではない、民間会社でもない、その違いを確固としていかなければならないと思います。

さてトータルケアは？

トータルケアは、ネットワーク活動の再生であり、社協活動の根幹事業であると捉えています。従来できなかったことが、この事業で起爆剤となりできるかもしれない、そんな淡い期待を抱きました。なぜなら、社協活動そのものがマンネリ化してしまい、事業の持つ意味そのものすら考えず、ただ消化すれば良いものになっていたからです。

しかし、上小阿仁村社協の1年目は、模索の年でした。事業計画が思うように進

められない原因には、職員内での情報共有・共通認識の不足があったと思います。事務局会議や職員会議もなく、改めて話し合う機会を設けないために、事業が未消化で終わりました。組織が脆弱であったと思います。

2年目は、住民200名に対する福祉意識調査を実施、一人暮らし119名に対する実態アンケートの実施、サポート運営委員会の設置と開催、関係機関ネットワーク連絡会議の開催、地域住民座談会の開催、いきいき昼食交流会の実施等、に取り組むことができました。取り組み2年目として事務局会議が開かれ、トータルケア推進事業には事務局全員でかかわるとの合意形成がされた成果でもあると思います。

しかし、上小阿仁村社協としての進んでいく方向への課題整理ができていないこと、また、合意形成が事務局のみで終わったことの反省が残りました。

3年目。今年度は、継続事業の中から、サポート運営委員会の活動充実をひとつの重点項目ととらえ、委員会の活動のあり方を提起してきました。あわせて、福祉意識調査の中から「福祉情報が不足、どこに相談したらよいかわからない、住民同志の交流や結びつきが少ないと感じている」との問題点を拾い上げ、社協のPRも必要との認識の中、サポート運営委員会主催のイベント「地域ふれあいデー」を開催しました。内容としては、和太鼓演奏、駒踊り披露、会長による講話「元気な長寿村を目指して」、健康体操、超人ネイガーショー、お楽しみ抽選会、福祉用具、福祉機器、介護用品の展示、福祉車両リフト等体験と1日を気楽に過ごしていただけるものとししました。

開催までは3回のサポート運営委員会を開催しましたが、社協事務所のある高齢者生活福祉センターを会場として、当日は延べ参加人数500名、商工会青年部や交通指導隊の協力、知的障害者施設「友生園」の出店、また社協職員全員が協力しての事業となったことも評価されるかと思います。

そして、サポート運営委員長のあいさつの中から一文を紹介すると「サポート運営委員会活動の最大の目標としては『地域で生活する大人も子供も含め、ひとりひとりが、自分らしく生き生きと安心して暮らし、そしてお互いに認め支えあいながら共存していく地域社会の実現をめざすための』総合的な生活支援ボランティア組織です。」とあります。トータルケアを進め成果がすぐ現れずとも、会を重ね、討議を重ねていくことの大事さがここに示されていると思いました。

これからも結果や成果をあせることなく、トータルケア推進事業への取り組みがもたらした波及効果を大事に、視点をぶらさず実践継続していくことが何よりの課題と感じています。



いきいき体操



地域ふれあいデー ふれあい講話



地域ふれあいデー ふれあい福祉機器

3 . 男鹿市社会福祉協議会でのトータルケアの取り組み

男鹿市社会福祉協議会

係長・在宅福祉相談員 目黒正樹

平成 17 年 3 月 22 日に男鹿市、若美町の合併に伴い社会福祉協議会も合併し、新男鹿市社会福祉協議会が誕生した。合併後も、地域の実情を考慮しながら福祉の低下は絶対招くことのないよう各種事業に取り組んでいる。

本市では、「地域福祉トータルケア推進事業」に取り組むにあたり、モデル地区（2 地区）を選定し、自治会、民生委員、関係機関等との連携・協力のもと事業を実施している。

<モデル地区 1 男鹿市北浦地区 ” ゆうゆうふれあいサロン ” >

北浦地区では、地区社協が主体となり、自治会、民生委員、社協役員、ボランティアの協力のもと「介護予防のための健康づくり・生きがいづくり」に重点をおき実施。家に閉じこもりがちにならないよう気軽に集まり、地域住民とふれあいながら、健康体操やゲームで体を動かした後会食を共にし、介護予防のためのプログラムを実施した。10 月から 1 月にかけて、計 4 回実施、延べ参加者数は 188 名に及び今年度も継続実施している。

継続的に実施していくことにより、介護予防、地域の問題点や課題の発見、参加者個人で抱え込んでいる悩み事の解決等を目指すと同時に、地域福祉力の強化という点を常に心がけていきたい。

<モデル地区 2 男鹿市若美地区 ” 朋友館ふれあい訪問 ” >

若美地区では事業実施にあたり、「若美地区サポート運営委員会」を立ち上げ事業の実施に努めた。「介護予防のための健康づくり、生きがいづくり」という点では、従来よりさまざまな事業を実施していることもあり、「地域に潜在化している問題・課題」の発見という点に注目して活動を進めた。

各種事業へ出席していない（できない）方々の声を拾い上げ、問題解決につなげていければと思い、各町内に設置されている「朋友館」（お年寄りの集いの場）22 カ所をサポート運営委員が中心となり重点的に訪問することとした。

社協では把握しきれしていない、さまざまな地域課題・問題・要望等を吸い上げることができた。その場で解決出来る問題、アドバイスすることによりより良い解決方法を探るべく問題、今後福祉座談会等を通じ地域課題として地域住民が共有していくべき問題などさまざまな意見が集められた。地域課題をいかに発見し、地域住民で共有し問題意識を高めていくかが地域の福祉力を高めていく第一歩ではないかと感じる。

<心の健康講座を開催>

「自殺予防」を主題に、「心」・「ストレス」・「地域」についての講座を開催し、「自殺」についてタブー視することなく、積極的に問題を受け止め、地域とのつながりの大切さを再確認することを目指す目的で、3カ月にわたり（月1回開催）「心の健康講座」を開催した。

講師には、秋田大学准教授 佐々木久長 氏を招き、「ストレスとつきあう方法」、「心の健康と自殺予防」、「自殺予防と地域のつどい」と計3回に分け貴重な講話をいただき、社協役職員、サポート運営委員、民生児童委員、地区社協関係者等延べ246人が参加した。

<最後に>

「地域福祉トータルケア推進事業」を実施するにあたり、モデル地区を設置し試験的に事業を進めてきたが、このような活動事例を参考に全地区に広め、ひとりでも多くの地域住民の理解が得られるよう、また、少しでも地域福祉力の向上につながるよう今後も努力していきたいと思う。

若美地区 <朋友館ふれあい訪問>



若美地区サポート運営委員会の様子



4 . 八郎瀧町社会福祉協議会でのトータルケアの取り組み

“ハッピーいきいきサロン「まめだが～」”をオープン

八郎瀧町社会福祉協議会

在宅福祉相談員 畠山 一将

八郎瀧町社会福祉協議会では、平成19年9月9日、空き店舗を活用した地域交流拠点として、ハッピーいきいきサロン「まめだが～」をオープンしました。誰でも気軽に立ち寄れる憩いの場として、徐々に町民の皆様からご利用いただいております。美郷町の「よってって」や湯沢市の「やすんでたんせ」を参考にさせていただき、作業委員会を立ち上げ、さらに県の地域縁側づくり事業の補助金も活用し、八郎瀧町独自の展開ができるよう住民にPRしています。

補助金はトイレや玄関の改修、防災設備取り付けなどに活用し、来所した方が利用しやすい造りに出来上がったと思っています。

介護予防教室、心配ごと相談、交流会などの社協事業や、小・中学生の作品展示、保育園活動の場所提供など様々な場面で活用し、広く住民に認知してもらいたいと考えています。

今後はボランティアを幅広く募集することと、もっと住民に参画してもらうためのPR活動が課題となっています。他社協の取り組みも参考にさせていただきながら、今後もトータルケアに力を入れていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



空き店舗活用作業委員会の会議